

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年1月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2775502335
法人名	特定非営利活動法人 すみれ
事業所名	グループホームすみれ八尾
所在地	八尾市太子堂2丁目4番6号 (電話) 072-945-0007

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 1月 11日

【情報提供票より】(平成 19年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	16人	常勤	3人, 非常勤 13人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	21,000円
敷金	有()円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 300円
	夕食	450円	おやつ 50円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要 (平成 19年 12月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	7名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	77歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	カイダ医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

最寄り駅よりほど近く、商店や保育園もある住宅街に民家を改修して建てられたホームです。理事長は長年福祉の現場を経験し、認知症の方への対応には小規模が望ましいとの思いからNPO法人を設立しました。地域に、より密着した支援と家庭的な安堵感のある生活環境作りに取り組んでいます。困難な状況にある利用者も受け入れています。看取りも数例経験し、家族・医療との連携も図られています。食事は3食共ホーム内で調理し、利用者も参加しながら楽しんでいます。玄関周辺にはすみれの花が咲いており、近隣住民にも好評です。ボランティアの受け入れも積極的です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価の課題については話し合い、改善しています。一日の生活リズムに外出を取り入れ、できるだけ外の空気を吸ってリフレッシュしてもらえるように努めています。また、医療関係者と調整して、なるべく薬に頼らない支援を心がけています。排泄パターンに合わせて昼間はおむつ類を使わないようにする工夫もしています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については理事長、管理者が中心に作成していますが、全項目について職員の意見も反映されています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、事業報告、活動内容報告、行事予定、その他利用者の日常生活を報告しています。取り組みとして、保育園との交流(運動会やバザーなど)を提案され、実行しました。近隣からの防災についての不安解消に取り組み、防災連絡網の作成や、近隣施設との連携体制ができています。委員の方の呼びかけで、お祭りの時にだんじりがホーム前を通り、利用者が見学できるようになりました。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関脇に意見箱を設置しています。家族の訪問時には声をかけ、苦情や意見、希望などを聴取し相談にのっています。年1回家族会を開催し、温泉へ出かけたりしています。今年は大掃除に家族の方が参加して、一緒に掃除・片付けなどを行いました。いろいろな機会を利用し、利用者や家族から意見を得るよう努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 週2回、近所のスーパーへ食材を買いに出かけています。スーパーの職員の方によく覚えてもらい、声をかけてもらっています。運営推進会議には民生委員も参加しており、情報を得ています。また、民生委員の協力のもと近隣への挨拶まわりも実行しました。保育園、小学校の運動会や催しに参加し、交流しています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「日々の時間の流れを大切に、いきいき元気ある暮らしを育む」をホームの理念として掲げています。住み慣れた地域で、その人らしく、穏やかな生活を提供していくことを目指しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が明文化され、ホーム内の日常目にする場所に掲示されています。職員には日々の業務の中で確認し合い、新任研修の時にも説明、周知しています。理念の言葉の意味についても全職員で話し合い日々実践に取り組んでいます。パンフレットにも明示されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	ホームは自治会に加入し、近隣とも交流していくところです。保育園との交流として運動会やバザー、地域のお祭りの模擬店にも出かけています。また、地域の秋祭りにはだんじりを利用者と共に見物しました。近くの特別養護老人ホーム内には、ボランティアの主催する喫茶があり、利用者がケーキやコーヒーを飲みに行けるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果で示された事項について、家族・職員に報告し、具体的な検討を行い改善に取り組んでいます。今回の自己評価については理事長、管理者が中心に作成したものに職員の意見を反映させています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定は作成されています。また、会議録で出席者が確認でき、会議で得た意見をサービス向上に活かせるように努めています。また、事業所の取り組みの課題を職員間でも話し合っています。運営推進会議は2カ月に1回開催しています。運営推進委員である民生委員の方が、保育園や学校その他近隣への挨拶に同行し、より交流が深まっています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村には日ごろから相談できる窓口を確保しています。何かあれば電話やメールでこまめに相談しています。運営推進会議に市の高齢福祉課からの参加も得ています。また行政からグループホーム入居の事例について相談を受け対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「すみれ便り」を2ヶ月に1回発行して、家族会の交流や活動報告、ボランティア紹介、行事予定などについてお知らせしています。また、毎月請求書と一緒に利用者一人ひとりにスタッフのコメントと写真を付けた「すみれ八尾便り」を送付し喜ばれています。家族が面会に来られた時には近況を伝え、相談にも応じています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に意見箱を設置し、家族会、運営推進会議、また面会時に家族の意見を聞くように努めています。年1回家族会を開催し意見交換をしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めています。新人職員が入る時は法人事務局にて研修をし、グループホームの理解とスムーズになじめるような工夫をしています。認知症の利用者にとってなじみの関係は大切なことで、今後も異動を最小限にすることが期待されます。職員の異動時には「おたより」にて報告を行い、家族の訪問時に紹介しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修ともに職員が参加する機会を設けています。年間のおおよその計画も立てており、毎月内部研修を実施し、全ての職員が参加できるように配慮しています。大阪認知症高齢者グループホーム協議会からの案内や、市の研修を活用しています。また、研修会に参加した職員から研修報告書の提出を受けています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入しています。八尾市行政の連絡会には年1回参加しています。今後は運営推進会議のメンバーや市の協力も得て、地域の同業者との交流を深めていくことを検討しています。八尾市の事業者連絡協議会のネットワーク作りと、さらにその中のグループホーム部の連絡会作りも進めています。経験のある他のグループホームとの連携を深め学ぼうとしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して利用でき、ホームでの生活のリズムをつかめる支援や、馴染みの関係を作っていけるような働きかけを行っています。また、職員が自宅や入所施設を訪問して面接の機会を作るほか、見学も受け入れ、ホームでの生活に納得が得られるよう努めています。抵抗のあった利用者も、家族と食事をしてもらいながら部屋で一緒に一日過ごしてもらい、落ち着かれた例もあります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	利用者と共に暮らすということを大切に、個々の特性を発揮できる機会を作っています。和裁の好きな方に着物の襟付けをしてもらったり、レストランで調理をしていた方には野菜の切り方や盛り付けを頼んだり、職人だった方には鍋の修理やねじ締めをもらったり、大工仕事のできる方には棚の位置を覚えてもらったりと、お互いに支え合う関係作りに努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の希望や意向の把握に努めています。言葉や表情から、利用者の状況を把握しています。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得て、入居に至るまでの様子について記述があります。今後は、さらにアセスメントシートを充実させ、職員間で情報を共有することが望まれます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体会議に職員が参加し、介護計画を作成しています。また利用者や家族の意見を取り入れ作成した介護計画は、利用者や家族から同意のサインを得ています。介護計画書の様式については、大阪認知症高齢者グループホーム協議会方式を参考にしてホーム独自の様式を作成中です。今後介護計画に基づく支援記録のとり方を検討し、整合性を持たず取り組みが望まれます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的には6ヶ月毎に実施しており、状態の変化が生じた場合は、その都度見直しを行うと共に、変化に応じた介護計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議での要望・意見を基に自然とのふれ合いができる行事の実施など、生活の継続が図れるように支援しています。また、協力主治医との協力により、利用者の状態に合わせた支援・対応が行われています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院を希望する利用者への対応を行っています。また内科医と歯科医のは定期的な往診と、歯科衛生士の週2回の診療を受けています。理学療法士や鍼灸士に訪問もしてもらっています。耳鼻科眼科等についても適切な受診の支援があります。夜間の緊急体制も整っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは。看取りの指針や確認書を作成し、これまでも看取りを経験しています。家族からの看取りの希望がある場合は、職員体制や家族との一体化した支援、医療機関との連携を保ちながら実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが勉強会やミーティングの際、プライバシーに関する意識向上を図るようにし、また日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応を心がけています。利用者の誇りやプライバシーには注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決まっていますが、利用者の日々の体調や希望に合わせて過ごせるように支援しています。できるだけ個別性に配慮した支援を行っています。利用者の活動状態に応じて、車椅子で買い物に出かけ、おやつを食べて帰ることもあります。特に希望の出ない方、言葉に出さない方にもどんなことを望んでいるか常に配慮しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から搬入してもらっています。食事は3食ともホーム内で調理し、できたての食事を提供しています。ホーム内の台所にて、利用者の得意な分野は手伝ってもらっています。また、週2回は近所のスーパーへ買出しに出かけ、利用者と共に考えたメニューを提供しています。職員も利用者と共に同じものを食べながら見守り支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や精神状況を見ながら支援しています。入浴は原則週2回ですが、希望すれば何時でも入浴可能です。夜間入浴の取り組みを検討中です。	○	入浴については週に3回は入浴できるよう、実施に向けた取り組みが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることを大切に、楽しみを探しています。職人だった方には、家族の希望もあり毎回新聞たたみを仕事に見立ててお願いし、「工賃ですよ」と支払ったお金を貯金箱に入れてもらう工夫をしています。その他の利用者にもリサイクルに出すために牛乳パックを切りそろえたり、衣類に名前を書いたり、洗濯物をたたむなど役割や楽しみごとをもって日々過ごせるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は保育園や特別養護老人ホーム、公園やスーパーもあり。利用者の散歩コースになっています。その日の天候や催し物を調べ、コスモス見学や、展覧会、文化祭等にも出かけています。近隣の理髪店にも出かけ挨拶を交わしたり、保育園の運動会練習の見学にも出かけていたりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	民家を改造したホームであり、玄関は通常鍵をかけていますが、利用者の外出が察知された場合は、職員が必ず付き添い、危険のないようにサポートしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時訓練については、利用者も含めて定期的に避難訓練をしています。消防署の協力も得ています。非常用飲料水や非常用として利用できる食品などの備蓄もあります。民生委員の協力により、防災についての連絡網の体制作りができました。近隣の特別養護老人ホーム2ヶ所とも協力体制を整え、安心感があります。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の利用者への配慮として、食材を工夫し、砂糖に代わる甘味料等の使用により対応しています。水分摂取が困難な利用者に関しては、果物ゼリーなどろみのあるもので対応しています。カロリー計算は搬入業者の管理栄養士に確認を行い、食事や水分の摂取量は記録しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的な家庭と同じような構造でありながら、移動しやすいように適所に手すりを設置しています。居間は思い出の作品や絵で彩られています。廊下や台所、食堂、浴室もバリアフリーになっており、落ち着いた雰囲気になっています。利用者の作品集やアルバムが整理され暖かい雰囲気です。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や亡くなられた方の過去帳、大切にされていたお雛様、筆筒、テレビ、ソファ、お誕生日の寄せ書きなどがあり、居心地のよい居室になるよう支援しています。写真には子どもや孫とのくつろいでいる姿がありました。		